

これからお話しするのは僕の高校生の時の話です。高校生の僕は、勉強がうまくいかない、友達も少なく、まるで一匹狼のようでした。毎日向かうのは厄介なテストと、面倒くさい人間関係ばかり。学校でひどい目に遭っても、両親すら自分のことしか考えていませんでした。家に帰ったら、夫婦喧嘩が再び目に映る、ガラスが割れる音が耳に響く、散々な日々を過ごすにつれて、僕は精神的に疲れて、家にも学校にも完全になんかしていませんでした。もう自分の居場所がない、とある日の深夜に家出することにしました。僕がゆっくりドアを開けようとしたところ、ドアにある妙な封筒が挟まれていることに気づきました。誰からの手紙が分かりませんが、宛先にはなんと「8年前の僕へ」と書いてありました。僕はいたずらかと思いつつ、その手紙を読み始めました。

過去の僕へ

君が、この手紙を受け取った時、多分この家を出るところだろう。その前に、この手紙を最後まで読んでほしい。僕は未来からこの手紙を書いたんだ。なぜって、これから起きることと、何をすべきか、君に伝えたいから。はっきりに言うけど、君が家を出たとしても現実には変わらないよ。子供の君には何もできない。その悔しさは分かるけど、今家を出ようが、自分の居場所を探そうが無駄なことだよ！それに、残った弟はどうする？一人にさせるつもりか？ 兄貴ってというのが… どうして一番最初に生まれてくるか知ってるか…？ 後から生まれてくる… 弟や妹を守るためだ！だから、兄として必ず弟を見守って一緒にこの状況を切り抜けよう。

君は誰よりも優しく、心も強く、思いやりもある。いくら不満を持っていても黙ったまま我慢するタイプだ。だから落ち着いて、家族と自分のわがままと、どっちが大事か、よく考えてみる。これから君は色々な人と出会う。君をいじめる人、裏切者（うらぎりもの）、そして助けてくれる人。挫折感を味わいながら、数えきれない困難を乗り越えているうちに、君の人生がどんどん変わって、心も視野も広がる。

ここまで読んでくれて、ありがとう。ドアの向こうにはもう一つ新しい道がある。でも、あくまで君がどんな人間になるか、どんな道を切り開くかは、君次第だ。挫折から立ち直れ、再び戦おう。

以上、僕が過去の自分に書いた手紙の話です。8年前、僕が誤った選択肢を選んでしまいました。もしその頃に戻れるならば、弟を守ってあげます。もう二度と「その時こうしておけばよかったのに」、なんか言いたくないです。今後、過去の教訓を忘れずに、自分を愛してくれる人を大切にして、後悔しない人生を送りたいと思います。

ご清聴、ありがとうございました。